

冒頭に、令和6年能登半島地震において、亡くなられた方々には哀悼の意を表しますとともに被災された方々に心からお見舞いを申し上げ、一刻も早い復旧・復興をお祈りいたします。

さて、本学の年間の研究成果と事業報告をまとめた『紀要』第20号の発刊に寄せて、一言ごあいさつ申し上げます。

昨年5月、新型コロナウイルス感染症が感染法上の2類から5類へと変更されました。社会生活が通常に戻りつつあり、経済状況の回復も期待されるところです。改めてこの1年を振り返ると、社会情勢の動きの大きさを痛感します。ロシアによるウクライナ侵攻に加え、イスラエル・パレスチナ武装勢力間の衝突などの国際紛争が世相に暗い影を落とし、それに伴い資源やエネルギーの高騰が一般市民の生活を圧迫すると共に、産業界でも重い足かせとなっています。記録的な猛暑に見舞われ、地球温暖化等大幅な気候変動に懸念を抱かれた方も多いと思います。農業はじめ様々な生産活動や社会活動に少なからぬ傷跡を残しました。世界に目を転ずれば、降るはずのないところに大雪が降ったり、地震や洪水、森林火災等の自然災害も、社会の変動に加勢しているようにさえ思えます。

少々大げさな話をすると、現在私たちは人類史上そうそうあるものではない大きな変化の中にあるといえます。Society 5.0 とか超スマート社会への移行という言葉方もします。変化の質もさることながら、私が気になるのは、各バージョンの更新に要した時間です。人類は、誕生以来100万年単位のスパンで長らく狩猟社会で過ごしてきました(Society 1.0)、やがて今からおよそ1万年前、農耕が始まると定住します(Society 2.0)。その後18世紀後半になり産業革命が起こって工業社会がスタートし(Society 3.0)、1990年代半ばにはコンピュータやインターネットが登場して情報社会に移行します(Society 4.0)。そして今、Society 5.0が到来しつつあります。Society 1.0から2.0までは万年単位のスピードでの変化でした。そこから3.0までは千年単位、3.0-4.0間は百年単位、4.0から5.0までは、20~30年しか要していません。

一体この先どうなるのか、と思案していると一昨年11月生成系AIであるChat GTPが登場しました。そこからあっという間に広く世間の話題となり普及拡大し、わずか1年そこそこ経った今や、新聞紙上で目にしない日はありません。私は、20数年前インターネットが仕事や生活に入ってきたころを思い出しました。こうなるともはや、昨年までこうだったからそのまま行こう、とはならない時代に突入したといえます。

私たちは、「技術」と「人づくり」の両面から、この変化をどうとらえ、どう対応していくのが今問われていると強く感じます。また、学生を指導する立場である以上、変化に対応するばかりでなく先を読みながら走ることも必要かもしれません。学校経営においてこれらの点を念頭に置き、教育・研究活動及び諸事業の一層の充実を図ってまいりたいと思います。引き続き忌憚のないご意見を賜り、ご指導・ご支援をお願いできれば幸いです。